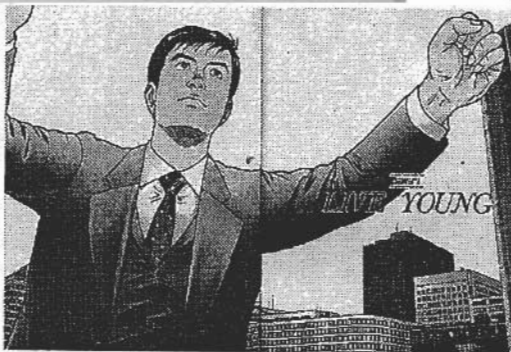


た。只野成恵参与(67)は「団塊世代の資産運用熱の高まりを感じる」と話す。

セミナー熱気

先月十八日、埼玉・大宮駅近くの生涯学習総合センターで「団塊世代の定年退職に備えて」と題した資産相談セミナーが開かれた。主催したのは地元さいたま市の税理士や弁護士が集まり、相続の相談や資産管理のけいもう活動をしている



役員に昇進した3年前、退職金を受け取っている。「島耕作常務」も団塊世代の一人 ©弘兼憲史/講談社

ことを考えて先行き税負担が発生するたかった」と示すと、参加者からため息が漏れた。

講義では、早稲田大学客員教授の大石雅規税理士が「退職後は資産運用で成果をあげたい」「経済的にささやかな余裕も持ちたい」。団塊世代が六十歳で規税理士が会社を退職しても、当初支確定申告の給される公的年金は報酬比説明書を配例部分だけという事情も加わり、蓄えた資産を守り殖の税額をシミュレーションだ。

ヨン。公的 東京証券取引所が昨春開

投資クラブに50歳台続々

NPO法人「資産相談センター」。対象を団塊に絞ったセミナーは今回が初めて

十人以上が集まった。

年金を年間三百三十万円も

らほらと目立つ。プリンシ

「東証アカデミー」。仕事の帰りの団塊の世代の姿もち

たセミナーは今回が初めて

同法人の中村孝三理事長

らっている人は二〇〇三年

パル(校長)で金融審議会

だったが、関心は高く、四代で、多くの人と退職後のが、控除の縮小などに伴ってナリストの高橋伸子氏